

2016 年度聖書の集い（第 8 回）

2017 年 1 月 11 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 447 番 「手をのぼし 主にふれよう」
- 2、お祈り
- 3、聖書 「ヨハネによる福音書 14：1～7（新約聖書 196 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

⑧「わたしは道であり、真理であり、命である」

新しい年が始まりました。今年もご一緒に聖書の言葉に聞いていきたいと思えます。さて今月は、礼拝堂の前にも掲げてある言葉です。これはイエス様が話されたことですが、「道」について、特に考えていきましょう。

① 道案内をする人として

アメリカのことわざに、このようなものがあります。

「子どもがそばにいるときには、自分が歩く道に気をつけなくてはいけない。子どもたちがついてくるから」。

子どもがそばにいるのに、歩道を見捨てて車道を歩くことはないでしょう。赤信号なのに車がひっきりなしに走っている中を横断しようとはしないでしょ。わざわざ水たまりに足を踏み入れることもないでしょう。

では人生という道ではどうでしょうか。子どもたちは親の後ろをついていきます。良いところだけ同じようについて来てくれたらいいのですが、真似をして欲しくないところに限って親にそっくりになっていくのが子どもです。

わたしたちは子どもたちの将来を見据え、先導しなければなりません。「親」という漢字は「木の上に立って見る」と書きます。遠くの方を見て危険を察知し、子どもたちにとって良い方向に導くことを、親は求められているのです。

② どこに行けばいいのか

とは言っても、一体どのように子どもたちを導いたらいいのでしょうか。今この子の言動をどう受け止めればいいのか、誕生日のプレゼントには何をあげればいいのか、泣き叫んでいるこの状態をおさめるにはどうしたらいいのか。子育てに最良の道があれば教えてほしいという声が聞こえてきそうです。

メールやラインが日常的なものとなり、いつでも相談できる人はいるようにも思えます。しかし本音で語り合える人がどれだけいるのでしょうか。一緒に涙を流してくれる人が、いつも必要なときにそばにいるのでしょうか。

夫に相談しても「育児は任せた」と言われ、祖父母に愚痴をこぼしても「わたしたちの時代はもっとひどかった」と取り合ってもらえない、そのような経験をしたこともあるかもしれません。わたしたち自身が道を見失ってしまう、そのときに子どもたちはどこに向かえばいいのでしょうか。

③ 道を示すイエス様

イエス様は「わたしは道である」という言葉を告げます。ではイエス様が示される道とはどのようなものなのでしょう。

自転車をこぐには、足元だけを見ていてはダメです。背筋を伸ばし、少し遠くを見るようにします。自動車の運転もそうです。近くではなく遠くを見ます。人生という道もそうなのです。

わたしたちは今日のこと、明日のことばかりを考えて、心が揺れ、倒れそうになってしまうのです。そうではなく、遠くを見るのです。では遠くには何があるのでしょうか。

わたしたちが歩む道の向こうには、大きな約束があります。それはわたしたちがどんなに寄り道しようとも、道を外れようとも、絶対に神さまはわたしたちを見捨てはしないという約束です。神さまがわたしを愛してくれている。その思いを胸に歩いていくなれば、子どもたちもきっと同じ思いで大きくなってくれるでしょう。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から